

# 熊本県のAYA世代のがんの5割が子宮頸がん

国の『第3期がん対策基本計画』(2017年～2022年)では小児、AYA世代、高齢者のそれぞれのがん対策が挙げられています。15歳から39歳までの年代をAYA世代 (Adolescent and Young Adult)と呼びます。国立がん研究センターは、最新のデータとして、年に約21,000人のAYA世代が新たになんと診断されていることを発表しました。熊本県の最新(2015年)の調査では、AYA世代では男女あわせて602人ががんと診断され、全体の3.9%ですが、子宮頸がん(上皮内がんを含む)がその5割を占めています(表)。

子宮頸がんは、その多くが性交によるヒトパピローマウイルス(HPV)感染が原因であり、感染を予防するワクチンの有効性も国内外で示されています。病気の進行には、異形成と呼ばれる前がん状態や子宮頸部の表面だけになんがある上皮内がんを経て進行がんに移行するまで数～十年を要しますので、がん検診によって最も早期に発見されやすいがんでもあります。しかし、熊本県の子宮頸がん検診の受診率は、上昇傾向にあるもののまだ29.6%(2014年調査)です。また、原則20歳を対象にした検診の無料クーポン券の利用率も1割程度にとどまっています。一方、AYA世代は、妊娠・出産を経験する年代でもあり、この年代で子宮を失う女性や、初期がんの治療で子宮を残すことができ

お尋ねした専門医の先生は

熊本大学大学院生命科学研究部  
産婦人科学講座 教授 片渕 秀隆先生



たものの、その後の妊娠で流産・早産になってしまう女性もおられます。こういう事態にならないために、2年に1度の検診を必ず受けて早期発見に努めることが重要です。

熊本県のAYA世代のがん罹患数と子宮頸がん罹患数(2015年)

男女計		全年齢での総数	AYA世代での総数 (全年齢総数に占める割合)	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
上皮内がんを 除いたがん	全部位	13,827	312(2.7%)	13	16	36	78	169
	子宮頸部	194	59(30.4%)	0	0	8	20	31
上皮内がんを 含んだがん	全部位	15,370	602(3.9%)	14	42	96	160	290
	子宮頸部	642	323(50.3%)	1	23	67	99	133

出典:熊本県のがん登録—平成27年[2015年] (第19報)

子宮がんの検査・治療はお近くの専門機関へ